

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
アップルスポーツカレッジ		平成5年12月6日		萬歳 憲重		〒950-0932 新潟市中央区長潟2-2-8 (電話) 025-286-5191																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人 国際総合学園		昭和32年10月10日		池田 祥護		〒951-8063 新潟市中央区古町通二番町541 (電話) 025-210-8565																	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
文化・教養	文化・教養専門課程	バスケットボール専攻科		平成19年文部科学省告示第20号	-																		
学科の目的	在、精神的な成長を促すことが求められる者の現状を踏まえ、道徳や文化・年令を超えてスポーツを楽しむことが推奨されている。こうした国際化・多様化している生涯スポーツ及び健康の育成におけるスペシャリストの果たす役割はますます大きくなっていく。また今後の日本スポーツイベントの増加と、その発展による地域スポーツ振興がますます進むに資するものである。これらから本校は、スポーツ、教育、文化活動を通して、日本スポーツ界の発展並びに地域、国際社会の発展に資することを目的とする。具体的には、国際的な人材を育成する。																						
認定年月日	平成28年2月19日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	3422時間	1114時間	120時間	208時間	0時間	1980時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
40人	16人	0人	1人	1人	2人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A～Eの評価でEは単位不認定																		
長期休み	■学年始:4月27日 ■夏季:7月23日～8月18日 ■冬季:12月19日～1月6日 ■学年末:2月26日		卒業・進級条件		進級基準・卒業基準は、年間54単位以上の修得																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者への指導等の対応 個別面談・保護者との連携等		課外活動		■課外活動の種類 各種部活動(野球・バスケットボール・バレーボール・サッカー) ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和1年度卒業生) プロ選手、実業団選手、スポーツクラブ等 ■就職指導内容 個別面談・就職研修・校内企業ガイダンスの実施等 ■卒業者数 7人 ■就職希望者数 6人 ■就職者数 6人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (平成 1年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Word3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>Excel3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	Word3級	③	7人	7人	Excel3級	③	7人	7人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
Word3級	③	7人	7人																				
Excel3級	③	7人	7人																				
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和1年4月1日時点において、在学者184名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者180名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 精神的な問題、進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリングの実施、個別面談の実施等		■中退率 2.2 %																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 NSGカレッジリーグ無利子奨学金制度・NSGカレッジリーグ母子・父子家庭奨学金制度・NSGカレッジリーグ災害奨学金融資制度等 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	http://www.applesports.jp/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職した者が就職先が不明の者は就職者として扱う)。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職した者が就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学外有識者、企業、業界団体等の意見を基に専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践的かつ専門的な知識、技能を持った人材育成教育を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会を設置し、意見を収集し、学科に係わる教育課程に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月30日現在

名前	所属	任期	種別
村山 哲二	ベースボール・チャレンジリーグ 代表	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
池田 拓史	(株)新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
早川 貴章	(株)新潟プロバスケットボール 営業部長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
稲田 昌郎	(株)アルス 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
大橋 亮	エイティナインベースボールショップ ゼネラルマネージャー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
田中 義雄	(株)新潟アルビレックスランニングクラブ 取締役普及部長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
萬歳 憲重	アップルスポートカレッジ 学校長		
本間 圭一	アップルスポートカレッジ 副校長		
鹿間 宏海	アップルスポートカレッジ 教務部長		
佐野 英朗	アップルスポートカレッジ トレーナー科 学科長		
雙田 一哉	アップルスポートカレッジ スポーツビジネス科 学科長		
横山 雅江	アップルスポートカレッジ 健康スポーツ科 学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和1年11月29日 17:30～18:30

第2回 令和1年12月9日 18:30～20:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

学科教育目標、目的の理解、学科科目の目標、授業内容の理解、業界動向、外部環境に関する理解と反映、教授・学習・評価課程に関する協議、卒業・就学・進学に関する情報共有、地域社会との交流に関する情報共有、研修に関する協議、教育課程改善に関する協議とその反映、その関連協議。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等の意見を基に専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践的かつ専門的な知識・技術を持った人材育成教育を目指し、現場に必要とされる即戦力の人材を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

○実習の事前研修(知識・実技・業界ルール等)

事前の研修を授業として実施し、知識・技術・業界ルール等を学び、現場実習に備える

↓

○現場実習(インターンシップ実習)

企業と連携し、企業での現場経験を積み、年2回企業よりフィードバックをいただき、能力向上に役立てる

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
バスケットボールⅠ・Ⅱ	トップレベルで活躍する為の技術、体力、脚力、戦術理解の向上、基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。	(株)新潟プロバスケットボール
バスケットボールⅢ・Ⅳ	トップレベルで活躍する為の技術、体力、脚力、戦術理解の向上、基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。	(株)新潟プロバスケットボール
バスケットボールⅤ・Ⅵ	トップレベルで活躍する為の技術、体力、脚力、戦術理解の向上、基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。	(株)新潟プロバスケットボール
バスケットボール理論Ⅰ・Ⅱ	バスケットボールの戦術を国内、国外、カテゴリー分け隔てなく、あらゆる分野から学ぶ	(株)新潟プロバスケットボール

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業・業界団体の基礎知識・技術はもちろんの事、最新の業界動向・市場を企業側と学校担当者は密に連携をして、情報収集及び最新の知識・技術を体得していく。学校担当者は業界側と同じ着眼点やレベルで学生指導ができるように努める。また学校側として職員レベルに合わせて計画的に研修を遂行し、人材育成に努める。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JBA公認コーチ・リフレッシュ研修」(連携企業等:新潟県バスケットボール協会)

期間:令和2年2月 対象:バスケットボール指導者

内容:有資格者の指導知識・技術の向上を図る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員フォローアップ研修」(連携企業等:株式会社アルゴオ)

期間:令和1年8月28日(水) 対象:職員

内容:「問題解決」をテーマとして、ロールプレイングを交えながら知識の向上を図る

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「JBA公認コーチ・リフレッシュ研修」(連携企業等:新潟県バスケットボール協会)

期間:令和3年2月 対象:バスケットボール指導者

内容:有資格者の指導知識・技術の向上を図る

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員フォローアップ研修」(連携企業等:株式会社アルゴオ)

期間:令和2年10月16日(金) 対象:職員

内容:「対人コミュニケーションとプレゼンテーション」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者、地域住民等や業界企業の学校関係者から委員を招集し、学校の自己評価結果を基に協議し、その改善策を学校運営に反映していくこととする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

業界関係者・卒業生から委員会を編成し会議を実施。令和1年度の学校自己評価書、学校向上アンケート結果を基に審議し、意見を聴衆した。今後の計画に反映させる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月30日現在

名前	所属	任期	種別
内藤 真理子	(株)新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	実習先
植野 翼	(株)新潟アルビレックスランニングクラブ	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	実習先
蟻浪 亮	(株)新潟プロバスケットボール	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<http://www.applesports.jp/>

公表時期: 令和2年3月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

下記ガイドラインを基に情報公開し、業界の進む方向性と学校教育の方向性が合致していることが望ましい。よって、目標・計画を企業側とチェックすることで、ミスマッチや温度差を少なくしていく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	無し
(11) その他	無し

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL:<http://www.applesports.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 バasketボール専攻科) 令和2年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			パソコンⅠ	Word 3級を取得するための対策授業	1年 通年	60	○			○			○	
○			パソコンⅡ	Excel 3級を取得するための対策授業	2年 通年	60		○		○			○	
○			ホームルーム	自己能力や自己啓発を促すための授業	1 2 3年 通年	180	○			○		○		
○			コミュニケーション学	コミュニケーション能力検定初級を取得するための対策授業	1年 前期	30	○			○		○		
○			検定対策Ⅰ・Ⅱ	ビジネス文章・サービス接客検定対策授業	1年 通年	60	○			○			○	
○			検定対策Ⅲ・Ⅳ	ビジネス文章・サービス接客検定対策授業	2年 通年	60	○			○			○	
○			検定対策Ⅴ・Ⅵ	パワーポイント・ホームページ制作検定対策授業	3年 通年	60	○			○			○	
○			トレーニング科学	メディカルチェックの基礎知識。生活、健康調査法、体力測定機器に関する基礎知識論、体力評価法等	1年 前期	20	○			○			○	
○			競技者育成システム論	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、チームマネジメント、競技スポーツとIT	1年 後期	12	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価 (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程 バスケットボール専攻科）令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			コーチングⅠ	スポーツ指導の基礎、スポーツ指導の原則、指導形態、スポーツ指導の実際評価の方法とその活用等	1年後期	12	○			○		○			
○			スポーツ心理学	運動技能の心理的特性、運動と効果、運動と知覚、運動意欲、運動場面と情動、運動指導の心理学等	1年後期	20	○			○			○		
○			スポーツ医学Ⅰ	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、救急処置等	1年前期	10	○			○				○	
○			スポーツ医学Ⅱ	アスリートの健康管理、内科的疾患と対策、外傷、障害と対策、アスレティックリハビリテーションと計画等	1年前期	20	○			○				○	
○			スポーツ社会学Ⅰ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1年後期	6	○			○			○		
○			スポーツ社会学Ⅱ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1年前期	8	○			○				○	
○			スポーツ経営学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	1年前期	12	○			○				○	
○			発育発達論Ⅰ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	1年前期	6	○			○			○		
○			トレーニング論	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画と実際、体力テストとその活用、スキルの獲得と獲得課程	1年後期	6	○			○				○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価 (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 バasketボール専攻科) 令和2年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツ栄養学	エネルギー源としての栄養素、食物の必要性と食習慣、水分補給とスポーツドリンク、練習プログラと食生活等	1年後期	10	○			○		○		
○			運動生理学	運動器のしくみと働き、呼吸循環器系の動きとエネルギー供給、スポーツバイオメカニクスの基礎等	2年前期	12	○			○			○	
○			スポーツ行政学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	2年前期	6	○			○			○	
○			発育発達論Ⅱ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	2年前期	10	○			○			○	
○			コーチングⅡ	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任、スポーツと人種、プレイヤーと指導者の望ましい関係等	2年前期	14	○			○			○	
○			バスケットボールⅠ・Ⅱ	技術、体力、脚力の向上・基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。協調性・対応力を身に付ける。チーム戦術を実践する	1年通年	480			○		○		○	○
○			ウェイトトレーニングⅠ・Ⅱ	競技者としての基礎となる筋力ベースを上げる為、基本動作から応用動作を実践し、競技者としての身体づくりを展開していく。	1年通年	120			○	○			○	
○			コンディショニングトレーニングⅠ・Ⅱ	基礎体力、脚力、コンタクトに負けないバランス力の向上・基本姿勢の習得とバスケットボールに必要な動作を習得する	1年通年	60			○	○			○	
○			バスケットボール理論Ⅰ・Ⅱ	バスケットボールの原理・原則、ファンダメンタルを学ぶ	1年通年	60	○			○			○	○
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価 (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 バasketボール専攻科) 令和2年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			バスケットボール戦術Ⅰ・Ⅱ	バスケットボールの戦術を国内、国外カテゴリー分け隔てなくあらゆる分野から学ぶ	1年 通年	60	○			○		○		
○			英会話Ⅰ・Ⅱ	バスケットボール競技者の中には、外国人選手も多くなり、公用語比率の高い英語を基礎から日常会話を学び、コミュニケーションできるように体得する	1年 通年	60	○			○			○	
○			バスケットボールⅢ・Ⅳ	技術、体力、脚力の向上・基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。協調性・対応力を身に付ける。チーム戦術を実践する	2年 通年	480			○		○	○		○
○			ウェイトトレーニングⅢ・Ⅳ	競技者としての基礎となる筋力ベースを上げる為、基本動作から応用動作を実践し、競技者としての身体づくりを展開していく。	2年 通年	120			○		○		○	
○			コンディショニングトレーニングⅢ・Ⅳ	基礎体力、脚力、コンタクトに負けないバランス力の向上・基本姿勢の習得とバスケットボールに必要な動作を習得する	2年 通年	60			○		○		○	
○			バスケットボール理論Ⅲ・Ⅳ	バスケットボールの原理・原則、ファンダメンタルを学ぶ	2年 通年	60	○			○			○	
○			バスケットボール戦術Ⅲ・Ⅳ	バスケットボールの戦術を国内、国外カテゴリー分け隔てなくあらゆる分野から学ぶ	2年 通年	60	○			○			○	
○			英会話Ⅲ・Ⅳ	バスケットボール競技者の中には、外国人選手も多くなり、公用語比率の高い英語を基礎から日常会話を学び、コミュニケーションできるように体得する	2年 通年	60	○			○			○	
○			バスケットボールⅤ・Ⅵ	技術、体力、脚力の向上・基本姿勢の習得～ボールハンドリング～チームプレイとバスケットボールに必要な動作を習得する。協調性・対応力を身に付ける。チーム戦術を実践する	3年 通年	480			○		○	○		○
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価 (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程 バasketボール専攻科）令和2年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ウェイトトレーニングV・VI	競技者としての基礎となる筋力ベースを上げる為、基本動作から応用動作を実践し、競技者としての身体づくりを展開していく。	3 年 通 年	120			○	○		○		
○			コンディショニングトレーニングV・VI	基礎体力、脚力、コンタクトに負けないバランス力の向上・基本姿勢の習得とBasketボールに必要な動作を習得する	3 年 通 年	60			○	○		○		
○			Basketボール理論V・VI	Basketボールの原理・原則、ファンダメンタルを学ぶ	3 年 通 年	60		○			○	○		
○			Basketボール戦術V・VI	Basketボールの戦術を国内、国外カテゴリー分け隔てなくあらゆる分野から学ぶ	3 年 通 年	60		○			○	○		
○			英会話V・VI	Basketボール競技者の中には、外国人選手も多くなり、公用語比率の高い英語を基礎から日常会話を学び、コミュニケーションできるように体得する	3 年 通 年	60		○			○		○	
○			STEP UP CAMP I・II・III	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1 ～ 3 年 通 年	72					○	○		○
○			SKILL UP CAMP I・II・III	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1 ～ 3 年 通 年	72					○	○		○
○			STEP研修 I・II・III	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1 ～ 3 年 通 年	48					○	○		○
○			日赤救急法・蘇生法	日本赤十字社公認の救急法救急員資格を取得するために、救急時の看護の基本的知識とその技術について学ぶ	1 年 前 期	16					○	○		○
合計				科目	3422単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価 (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。